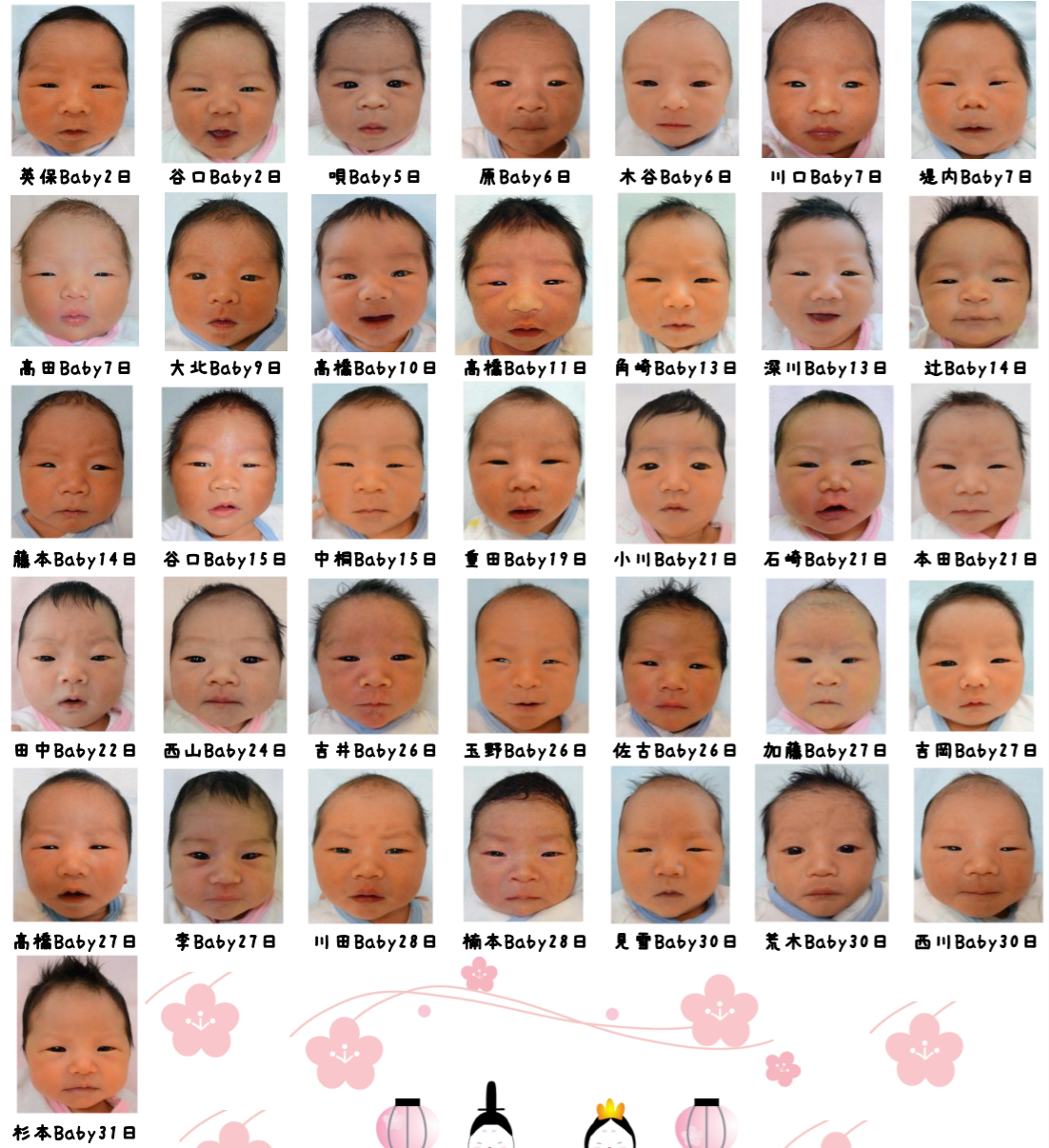


3月生まれの赤ちゃん おたんじょうおめでとうございます



HPでの赤ちゃん写真をアップをしております。
マッキー通信をHPでもご覧になれます。

赤ちゃんの血液型検査のお話



赤ちゃんのABO血液型検査とは

ABO血液型検査は、おもて試験とうら試験を実施して両検査の結果が一致して初めて正確に判定されます。新生児は赤血球膜上のA、B、H抗原の発達が不十分で成人の1/3程度とされています。

さらに児が抗体を産生し始めるのは生後3〜6ヶ月からで新生児は普通抗体が検出されず、うら試験が正しく行えません。

また1歳未満の乳幼児のABO血液型検査において、おもて検査とうら検査の一致率は約50%とされています。

そこで、新生児や1歳未満の乳幼児におけるABO血液型の検査結果は、おもて試験の結果のみの条件付き報告がなされます。

これらの事情により、1歳未満では信頼性に乏しいため、正確な血液型の判定は、生後1年以上経過してから、できれば4歳以上で実施する必要があります。



新生児の生理的黄疸検査

新生児黄疸とは

黄疸とは、赤血球の分解された後の物質であるビリルビンが増加(高ビリルビン血症)するために皮膚や粘膜にたまり黄色になった状態をいいます。

新生児期にはおなかの中での赤ちゃん赤血球がたくさんあり、このため赤黒く見え、その結果『赤ちゃん』といわれるのです。胎児期には肝臓でビリルビンを処理する働きが(グルクロン酸抱合)が不十分なために黄疸が出てくるのです。

ふつう生後2〜3日目からあらわれ、4〜5日目ごろが最も強くなり、1〜2週間で消えていきます。母乳栄養の乳児の一部に黄疸が1ヶ月以上持続することがあります。これは母乳黄疸とよばれますが、黄疸以外に問題はありませんので、特別の治療を必要としません。

